

## 『&lt;&lt;標準臨床検査学&gt;&gt; 免疫検査学』第1版 第1刷（2013年2月15日発行）正誤表

2014年1月作成

訂正箇所	誤	正	掲載年月日
9頁・学習のポイント⑤・2行目	主要組織適合 <b>抗原</b> 遺伝子複合体(MHC)	主要組織適合遺伝子複合体(MHC)	2014.01.13
10頁・右段・下から7～4行目	代表的な自己抗原にはDNA, RNAの構成成分 <b>に対する抗核抗体やIgGに対するリウマトイド因子(RF)などがある。</b>	代表的な自己抗原にはDNA, RNA <b>などの核構成成分やIgGがある。核抗原に対する抗核抗体やIgGに対するリウマトイド因子(RF)は自己抗体として自己免疫疾患で検出される。</b>	2014.01.13
58頁・表3「細菌関連」カラムの4行目	肺炎球菌	肺炎 <b>レンサ</b> 球菌	2014.01.13
58頁・表3「その他」カラムの1行目	h <b>H</b> CG	hCG	2014.01.13
104頁・左段「g. IL-10」の項の1行目	IL-10はTh2細胞, T <b>h</b> 1細胞より産生され,	IL-10はTh2細胞, T <b>r</b> 1細胞より産生され,	2013.03.04
104頁・左段「g. IL-10」の項の4～5行目	( <b>BamH1C</b> fragment rightward reading frame)	( <b>BamH1 C</b> fragment rightward reading frame <b>1</b> ) ( <b>BamH1</b> と <b>C</b> を分割, <b>frame</b> の後に <b>1</b> を追加)	2014.01.13
149頁・図1・タイトル	自然免疫と <b>特異</b> 免疫応答	自然免疫と <b>獲得</b> 免疫応答	2014.01.13
149頁・図1・図中左側, 中ほどの文字	<b>特異</b> 免疫応答	<b>獲得</b> 免疫応答	2014.01.13
162頁・左段・下から4行目	抗 <b>TP</b> 抗体	抗 <b>ALP</b> 抗体	2014.01.13
411頁・右段	(追加)	<b>レギュラトリー(制御性)T細胞</b> (regulatory T cell) : CD4 <sup>+</sup> T細胞のサブセットであり, 免疫機能に抑制的に作用する。狭義には転写因子であるFoxp3 <sup>+</sup> とCD4 <sup>+</sup> CD25 <sup>+</sup> を発現するT細胞をレギュラトリーT(Treg)細胞というが, 広義にはFoxp3 <sup>-</sup> CD25 <sup>-</sup> で免疫抑制性サイトカインであるTGF-βを産生するTh3細胞とIL-10を産生して細胞性免疫を抑制するTr1細胞もレギュラトリーT細胞に含める。☞Treg細胞	2014.01.13